

# 大子町歴史略年表

		<u>原始</u>	天保13年(1842)	天保検地 合村分村改名組入の実施(大子地方40村に)
B.C.10000年	仲山遺跡(関東ローム層から頁岩の剥片出土)		嘉永3年(1850)	大子陣屋跡に医学館(後の文武館)の文庫建設(町指定史跡)
B.C.7000年	埴平遺跡		安政3年(1856)	大子郷校文武館の開館(1865年廃止)
B.C.4000年	古館遺跡		万延元年(1860)	桜田門外の変、この変に加わった関鉄之介、大子地方に潜居
B.C.500年	仲山遺跡(弥生土器片出土)		元治元年(1864)	天狗党、筑波で拳兵 天狗党武田勢、大子村に入り諸生派と交戦、月居峠で戦う その後天狗党西上(武田耕雲斎、藤田小四郎等) 田中憲蔵隊一八溝山頂で解散
		<u>古代</u>		
500年	上岡古墳群(町指定史跡)、仲山古墳群(3号墳から直刀・刀子・鎌出土、町指定考古資料)、下野宮宿遺跡(竪穴住居跡)		明治4年(1871)	大子地方の村々、水戸県管轄、後に茨城県へ移行
弘仁2年(811)	常陸に通ずる道に高野駅・長有駅を設置		明治6年(1873)	この年から小学校の設立開始
承和3年(836)	八溝黄金神(現:八溝嶺神社)に封戸を授け、朝廷に献上する黄金を倍にさせて遣唐使の資金を助けさせた		明治7年(1874)	郵便取扱役所開設(同8年、大子郵便局と改称)
延長5年(927)	『延喜式』成立 神名帳に八溝嶺神社がみえる		明治22年(1889)	町村制実施、9村が発足
承平年間(931~938)	『和名類聚抄』成立 白河郡依上郷(後に依上保)がみえる		明治23年(1890)	大子地方大洪水
		<u>中世</u>	明治24年(1891)	大子村、町制施行
1200年代後半頃	小川宗義(佐竹義胤4男)、頃藤城主となる		明治25年(1892)	大子町役場、大子小学校敷地に新築移転
正安2年(1300年)	如信上人(親鸞上人の孫)上金沢の草庵にて没		明治26年(1893)	大子郵便局に電信架設(大子郵便電信局と改称)
建武元年(1334)	白河結城宗広、陸奥守北畠顕家から依上保の代官を命じられる		明治32年(1899)	この年、各村に赤痢病大流行
建武2年(1335)	宗広の子親朝、後醍醐天皇から依上保を与えられ、顕家から検断権を与えられる		明治34年(1901)	久慈川沿岸護岸工事落成
1344年以降	依上保内の久慈川東岸側は山入氏(佐竹氏一門)、その西岸側は北酒出氏(佐竹氏庶家)、依上氏(山入氏一門)、白河結城氏が領有		明治36年(1903)	久慈川橋架設/この年 大子―山方面の県道改修工事完了(現:国道118号)
応永年間(1394~1427)	袋田氏(山入氏一門)、袋田城主となる(一時廃城)		明治37年(1904)	この年馬頭町―大子町間乗合馬車開業
永正7年(1510)	佐竹義舜(佐竹氏宗家)、白河結城氏の属城大子城を攻略し依上保を奪還		明治40年(1907)	大子町外七ヶ村学校組合立大子農学校の発足(現:大子清流高校)
元龜2年(1571)	佐竹義重南郷(現:棚倉町付近)に侵攻		明治43年(1910)	大子地方大洪水/私立大子女子技芸講習所の発足(現:大子清流高校)
天正19年(1591)	秀吉、佐竹領内の金山を預けおくとの名目で佐竹義宣に連上金を課す(佐竹の金山開発―八溝山、洞坂(大沢)、金沢(上・下金沢) 全国第4位)			<u>大正</u>
文禄4年(1595)	前年の佐竹領の太閤検地の結果、豊臣秀吉から佐竹義宣は54万5800石の所領を安堵される		大正4年(1915)	常野自動車合名会社、黒沢村町付―上野宮間乗合自動車営業開始
		<u>近世</u>	大正5年(1916)	大子町大火/初めて電燈点火
慶長5年(1600)	関ヶ原の戦い(佐竹氏は家康に積極的には協力せず)		大正8年(1919)	大子町―大宮町間乗合自動車営業開始
慶長7年(1602)	佐竹氏の秋田国替え		大正9年(1920)	大子地方大洪水
	武田信吉(徳川家康5男)、水戸城主(15万石)となる 生瀬乱起こる(慶長14年説もあり)		大正13年(1924)	大子町役場、本町に新築移転
慶長8年(1603)	徳川頼宣(徳川家康10男)、水戸城主(20万石)となるが一度も水戸入りせず駿河に転封		大正14年(1925)	大郡線(現:水郡線)山方宿駅―上小川駅間の開通
慶長14年(1609)	徳川頼房(徳川家康11男)、水戸城主(25万石)となる。 ※浅川のささら(県指定無形民俗文化財)			<u>昭和</u>
元和5年(1619)	頼房、初めて水戸入る		昭和2年(1927)	大郡線上小川駅―常陸大子駅間の開通/大子町に初めて電話が開通
寛永18年(1641)	寛永検地、大子地方石高2万9175石		昭和6年(1931)	大子地方、豪雨と降雪で被害甚大
寛文3年(1663)	徳川光圀、初めて大子地方巡村(11回来村)飯村家(町付)などに宿泊		昭和10年(1935)	この年、前年から続く冷害により米の大減収
元禄9年(1696)	1村1社制(神社整理)		昭和11年(1936)	袋田温泉湧出
享保6年(1721)	浅間山噴火、砂・灰が大子地方にも降下 この年凶作		昭和13年(1938)	大子地方、久慈川など洪水
明和4年(1767)	大窪詩仏(江戸の四詩家)、池田村に生れる		昭和14年(1939)	茨城県、満州開拓大子町分村第九次冷家店開拓団を追加指定
安永5年(1776)	中島藤右衛門(現:常陸大宮市諸沢)、粉こんにやくの製法考案		昭和15年(1940)	満州開拓大子町分村第九次冷家店開拓団先遣隊出発
天明6年(1786)	益子金蔵(上野宮村)、粉こんにやくの製粉加工法考案 この年洪水・冷害、翌年にかけて大飢饉		昭和16年(1941)	久慈川、押川大洪水、浸水家屋多数、田畑被害甚大 大子町に満州開拓推進隊誕生
享和2年(1802)	郡制改革により大子陣屋の設置(現:だいで保育園)(1831年廃止)		昭和17年(1942)	大子町翼賛青年団結成式 満州開拓大子町分村第九次冷家店開拓団、家族招致や本隊員入植進行
文化2年(1805)	大子村に大火発生		昭和18年(1943)	この年各町村に勤労報国隊結成
文化6年(1809)	徳川治紀、大子地方巡村		昭和20年(1945)	常陸大子駅空襲
文化14年(1817)	水戸藩、粉こんにやくなど主要国産物34品目を指定して取引を規制		昭和22年(1947)	農地改革開始/大子地方各町村で新制中学校開校式
文政7年(1824)	大津浜(北茨城市)にイギリス人が上陸、大子村郷土益子民部左衛門、獵師を率いて海防定詰となる		昭和23年(1948)	大子町自治体警察発足
天保5年(1834)	徳川斉昭、大子地方巡村 旅澤家(上野宮)、大藤家(小生瀬)等に休息・宿泊		昭和25年(1950)	大子地方最初の簡易水道が大子町に完成
天保7年(1836)	天保の大飢饉		昭和26年(1951)	自治体警察廃止、大子地区警察署発足
			昭和29年(1954)	大子警察署発足/大子保健所開設
			昭和30年(1955)	1町8か村合併で現大子町発足
			昭和36年(1961)	町役場新庁舎竣工
			昭和47年(1972)	大子中学校跡地に大子町中央公民館竣工
			昭和50年(1975)	文武館文庫ほか6件を初めて町指定文化財に指定
			昭和60年(1985)	合併30周年記念、町民憲章、町の花、町の鳥を制定